

平成30年度 地域医療介護総合確保基金事業補助金
(病床の機能分化・連携支援事業) について

資料 1

1 目的

地域医療構想の達成のため、地域において不足している病床の機能への転換のための整備費用等を助成する。

2 補助対象

健康保険法（大正11年法律第70号）第63条第3項第1号に規定する保険医療機関（鹿児島県内に存する医療機関に限る。）が行う次の事業を補助対象とする。

(1) 急性期機能病棟又は慢性期機能病棟から回復期機能病棟に病床の機能を転換するに当たり、施設・設備の整備に要する経費

- ・急性期機能病棟：急性期一般入院基本料を算定する病棟
- ・慢性期機能病棟：療養病棟入院基本料を算定する病棟
- ・回復期機能病棟：地域包括ケア病棟入院料(地域包括ケア入院医療管理料を含む。)又は回復期リハビリテーション病棟入院料を算定する病棟

○対象経費及び補助金額(算出された補助金額に千円未満の端数が生じた場合は切り捨て)

補助金の交付対象となる経費	基準額	補助金額
回復期機能病棟に病床の機能を転換するために要する次の経費	1 施設整備	次に掲げる額のうち最も少ない額に2分の1を乗じて得た額
1 施設整備 新築, 増改築, 改修に要する工事費又は工事請負費	(1) 新築又は増改築 1床当たり 4,378千円	1 基準額
2 設備整備 医療機器等の備品購入費	(2) 改修 1床当たり 3,214千円	2 対象経費の実支出額
	2 設備整備 1施設当たり 10,800千円	3 総事業費から寄附金その他の収入額を控除した額

(2) 集中治療室又はハイケアユニットを新たに整備し、又はそれらの機能を維持するために必要な施設・設備（鹿児島県がん診療施設施設整備費補助金交付要綱及び鹿児島県がん診療施設設備整備事業補助金交付要綱の対象となる施設・設備を除く。）を整備するために要する経費。

○対象経費及び補助金額(算出された補助金額に千円未満の端数が生じた場合は切り捨て)

補助金の交付対象となる経費	基準額	補助金額
集中治療室又はハイケアユニットを新たに整備し、又はそれらの機能を維持するために要する次の経費	1 施設整備	次に掲げる額のうち最も少ない額に2分の1を乗じて得た額
1 施設整備 新築, 増改築, 改修に要する工事費又は工事請負費	(1) 新築又は増改築 1床当たり 4,378千円	1 基準額
2 設備整備 医療機器等の備品購入費	(2) 改修 1床当たり 3,214千円	2 対象経費の実支出額
	2 設備整備 60,000千円	3 総事業費から寄附金その他の収入額を控除した額

3 平成30年度当初予算

437,419千円（財源：地域医療介護総合確保基金）

**平成30年度 鹿児島県地域医療介護総合確保基金事業補助金
(病床の機能分化・連携支援事業)の事業計画概要**

1 医療機関の概要

医療機関名	公益財団法人慈愛会 今村総合病院		開設者名	今村 英仁								
所在地	鹿児島市鴨池新町11番23号		構想区域	鹿児島医療圏								
診療科目	内科、救急科(総合内科)、血液内科、糖尿病内科、腎臓内科、人工透析内科 脳神経内科、外科、消化器外科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科 皮膚科、ペインクリニック内科、リハビリテーション科、眼科、泌尿器科 耳鼻咽喉科、気管食道・耳鼻咽喉科、脳神経外科、整形外科、放射線科 精神科、病理診断科、麻酔科、産科、婦人科、小児科、歯科口腔外科											
許可病床数	一般	336	療養	0	精神	40	結核	0	感染症	0	計	376
各種指定状況	救急告示病院、県がん診療指定病院、基幹型臨床研修病院											
病床機能報告 (平成29年7月)	高度 急性期	19	急性期	255	回復期	36	慢性期	0	計	310		

2 事業の概要

事業対象病棟名	ICU病棟				
事業区分	①施設整備(新築・増築・改築・改修) ②設備整備 (○で囲む)				
実施予定期間	平成31年1月1日～平成31年3月31日	供用開始予定 平成31年4月			
事業内容	当院は昨年6月に増築し、ほとんどの病床は新館で稼働。しかし、ICUは移設せず旧館4階にあり。手術室及び各病棟との動線等を考慮し、今回はICU(10床)の移設を行う。				
事業目的・目標	目的:鹿児島保健医療圏は、県内の他保健医療圏の最大の流出先であり、特に手術を伴う入院患者の受療動向をみると、鹿児島保健医療圏で多くの患者を受け入れている。このような状況を踏まえ、当院においても、今回のICU移設により、院内の機能集約を行うことで、今まで以上に高度急性期機能を強化し、重度の患者様を受け入れられる体制を整えていく。 目標:地域の連携医療機関からの紹介を断ること無く、ICUのベッド稼働率80%を目指す。				
機能転換する病床数	0床 (期 → 期)				
施工面積	794.97 m ²				
当該病棟の入院基本料・特定入院料の適用	機能転換前 ー 機能転換後 ー 【届出予定時期】平成 年 月				
当該病棟の病床機能報告	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
機能転換前(平成29年7月)	10				10
機能転換後(平成31年7月)	10				10
増減	0	0	0	0	0

事業費等

● 対象経費の支出額

①施設整備	対象経費の支出額
内装工事費	44,400 千円
直接仮設費	1,500 千円
諸経費	6,800 千円
消費税	4,216 千円
小計(A)	56,916 千円
②設備整備	対象経費の支出額
小計(B)	0 千円
合計(A+B)	56,916 千円

● 財源内訳

合計	0 千円
----	------

● 補助金額の算定

①施設設備	ア 基準額 3,214 千円 × 10 床 = 32,140 千円
イ 対象経費の実支出額(A)	56,916 千円
ウ 補助金額(ア、イいずれか少ない額 × 1/2)	32,140 千円 × 1/2 = 16,070 千円
②施設設備	ア 基準額 10,800 千円
イ 対象経費の実支出額(B)	千円
ウ 補助金額(ア、イいずれか少ない額 × 1/2)	千円 × 1/2 = 0 千円
③補助金額合計(①ウ+②ウ)	16,070 千円

※事業内容が分かる以下の資料を添付すること

【施設整備】概略平面図(施工前と施工後が分かるもの:A3サイズ以下)、概算見積書等
【設備整備】カタログ、概算見積書等

平成30年度 鹿児島県地域医療介護総合確保基金事業補助金
(病床の機能分化・連携支援事業)の事業計画概要

1 医療機関の概要

医療機関名	鹿児島市立病院		開設者名	鹿児島市					
所在地	鹿児島市上荒田町37番1号		構想区域	鹿児島医療圏					
診療科目	内科, 神経内科, 消化器内科, 循環器内科, 呼吸器内科, リウマチ科, 小児科, 新生児内科, 精神科, 放射線科, 消化器外科, 心臓血管外科, 呼吸器外科, 乳腺外科, 小児外科, 整形外科, 形成外科, 脳神経外科, 皮膚科, 泌尿器科, 産婦人科, 眼科, 耳鼻咽喉科, 歯科, 歯科口腔外科, 麻酔科, 救急科, 病理診断科								
許可病床数	一般	568	療養	精神	結核	感染症	6	計	574
各種指定状況	救急告示病院, 救命救急センター, 鹿児島県小児救急拠点病院, 基幹型臨床研修病院, 地域がん診療連携拠点病院, 基幹災害拠点病院, 地域医療支援病院, 総合周産期母子医療センター, 第2種感染症指定医療機関								
病床機能報告 (平成29年7月)	高度急性期	542	急性期	32	回復期	慢性期	計	574	

2 事業の概要

事業対象病棟名	3階ICU				
事業区分	①施設整備(新築・増築・改築・改修) <input checked="" type="checkbox"/> ②設備整備 <input checked="" type="checkbox"/> (○で囲む)				
実施予定期間	平成31年1月1日～平成31年1月31日	供用開始予定	平成31年2月		
事業内容	現在, 当院では, 16床あるICU病床全てにベッドサイドモニタを1台ずつ(計16台)整備しているが, そのうちの7台は平成18年度に整備しており, 耐用年数5年に対し, すでに12年を超えていることに加え, 計測機能も最新機器と比較すると十分ではないため, 今回, 7台のうち4台を最新の機器に更新する。				
事業目的・目標	鹿児島保健医療圏は, 県内の他保健医療圏の最大の流出先であり, 特に手術を伴う入院患者の受療動向をみると鹿児島保健医療圏で多くの患者を受け入れている。このような状況を踏まえ, 当院は引き続き, 高度急性期医療を担う県下の中心的病院として, 診療密度の高い医療を提供するため, ICU病床においても高機能の機器を整備し, 高度急性期機能を維持していく。				
機能転換する病床数	床 (期 → 期)				
施工面積	m ²				
当該病棟の入院基本料・特定入院料の適用					
機能転換前	—				
機能転換後	—				
【届出予定時期】平成 年 月					
当該病棟の病床機能報告	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
機能転換前(平成29年7月)	16				16
機能転換後(平成31年7月)	16				16
増減	0	0	0	0	0
事業費等					
● 対象経費の支出額			● 補助金額の算定		
①施設整備		対象経費の支出額	① 施設設備		
		千円	ア 基準額		
		千円	_____ 千円 × _____ 床 = _____ 0 千円		
		千円	イ 対象経費の実支出額(A)		
		千円	_____ 千円		
		千円	ウ 補助金額(ア,イいずれか少ない額×1/2)		
		千円	_____ 千円 × 1/2 = _____ 0 千円		
	小計(A)	0 千円	② 施設設備		
②設備整備		対象経費の支出額	ア 基準額		
	ベッドサイドモニタ	29,484 千円	60,000 千円		
		千円	イ 対象経費の実支出額(B)		
	小計(B)	29,484 千円	29,484 千円		
	合計(A+B)	29,484 千円	ウ 補助金額(ア,イいずれか少ない額×1/2)		
● 財源内訳			29,484 千円 × 1/2 = 14,742 千円		
	自己財源	29,484 千円	③ 補助金額合計(①ウ+②ウ)		
		千円	14,742 千円		
		千円	_____ 千円		
	合計	29,484 千円			

※事業内容が分かる以下の資料を添付すること

【施設整備】概略平面図(施工前と施工後が分かるもの:A3サイズ以下), 概算見積書等

【設備整備】カタログ, 概算見積書等

**平成30年度 鹿児島県地域医療介護総合確保基金事業補助金
(病床の機能分化・連携支援事業)の事業計画概要**

1 医療機関の概要

医療機関名	社会医療法人緑泉会 米盛病院	開設者名	米盛 公治
所在地	鹿児島市与次郎一丁目7-1	構想区域	鹿児島保健医療圏
診療科目	整形外科、救急科、外科、脳神経外科、心臓血管外科、消化器外科、内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、心療内科、放射線科、産婦人科、リハビリテーション科、リウマチ科、小児科、麻酔科		
許可病床数	一般 506	療養	精神 結核 感染症 計 506
各種指定状況			
病床機能報告 (平成29年7月)	高度急性期 18	急性期 187	回復期 100 慢性期 計 305

2 事業の概要

事業対象病棟名	HCU病棟			
事業区分	①施設整備(新築・増築・改築・改修) ②設備整備 (○で囲む)			
実施予定期間	平成31年1月5日～平成31年3月31日 供用開始予定 平成31年4月			
事業内容	別紙1参照			
事業目的・目標	別紙1参照			
機能転換する病床数	8床 (急性期(※平成30年5月末までは回復期) → 高度急性期)			
施工面積	m ²			
当該病棟の入院基本料・特定入院料の適用				
機能転換前	急性期一般入院料1(平成30年5月末までは回復期1および回復期3)			
機能転換後	ハイケアユニット入院医療管理料 【届出予定時期】平成 31年 4月			
当該病棟の病床機能報告	高度急性期 急性期 回復期 慢性期 計			
機能転換前(平成29年7月)		8		8
機能転換後(平成31年7月)	8			8
増減	8	0	▲ 8	0

事業費等

● 対象経費の支出額

①施設整備	対象経費の支出額
	千円
	千円
	千円
	千円
	千円
	千円
小計(A)	0千円
②設備整備	対象経費の支出額
医療機器購入	90,771千円
	千円
小計(B)	90,771千円
合計(A+B)	90,771千円

● 財源内訳

	千円
	千円
	千円
合計	0千円

● 補助金額の算定

① 施設設備

ア 基準額
千円 × 床 = 0千円

イ 対象経費の実支出額(A)
千円

ウ 補助金額(ア、イいずれか少ない額 × 1/2)
千円 × 1/2 = 0千円

② 施設設備

ア 基準額
60,000千円

イ 対象経費の実支出額(B)
90,771千円

ウ 補助金額(ア、イいずれか少ない額 × 1/2)
60,000千円 × 1/2 = 30,000千円

③ 補助金額合計(①ウ + ②ウ)
30,000千円

※事業内容が分かる以下の資料を添付すること

【施設整備】概略平面図(施工前と施工後が分かるもの:A3サイズ以下)、概算見積書等

【設備整備】カタログ、概算見積書等

【事業内容】

現在の HCU 病棟とは別に HCU 病棟を新たに設置する。

当院は、現在 ICU 病棟(10 床)及び HCU 病棟(8 床)を各 1 病棟保有しているが、今回、4 階 HCU 病棟(8 床)を新設することに伴い、同病棟に設置する設備整備を行う。

なお、新設する 4 階 HCU 病棟(8 床)は、4 階北病棟(急性期機能)より 8 床を移床する予定。

【移設時(平成 31 年 4 月予定)の移床計画】

(新 4 階 HCU 病棟)0 床→8 床(+8)

(4 階北病棟)52 床→44 床(△8)

【事業目的・目標】

鹿児島保健医療圏は、県内の他保健医療圏の最大の流出先であり、特に手術を伴う入院患者の受療動向をみると、鹿児島保健医療圏で多くの患者を受け入れており、当院においても同様の状況にある。

また、当院は鹿児島県と「鹿児島県ドクターヘリ補完ヘリの救急患者搬送に関する協定」を締結し、鹿児島県ドクターヘリの重複要請事案・多数傷病者事案等の際、当院が所有する民間医療用ヘリで補完活動を行っていることもあり、高度急性期及び急性期病棟の稼働率、重症率が非常に高い状況が長期的に続いていた。

本年 6 月の病院拡張に伴い、急性期病棟に関しては増床が実現したことで、直近の救急受け入れに関しても以前よりも更に増加している状況にあるが、引き続き、高度急性期病棟の空きが少ないこともあり、急性期病棟での重症率は 40%前後と非常に高い水準が続いている。

このような現状を踏まえ、今回の体制整備を行うことにより、鹿児島保健医療圏だけでなく、他保健医療圏からの高度医療を必要とする入院患者へも、診療密度の高い医療をこれまで以上に円滑に提供することを実現し、同時に、重症度の非常に高い患者の一部が高度急性期病棟で受け入れ可能となることにより、急性期病棟に勤務するスタッフの一定の負担軽減にも繋げたい。

※「事業計画概要」内の「当該病棟の病床機能報告」欄には、今回の事業対象となる 8 床に関し、病床機能報告のスケジュールの関係上、「機能転換前」の機能として平成 29 年 7 月時点の「回復期」にて記載されているが、昨年末の「第 4 回 鹿児島保健医療圏 地域医療構想調整会議」での説明(病院全体では回復期病床は増加)に沿い、平成 30 年 6 月以降は、既に急性期機能として使用している病棟となっている。

先月報告の平成 30 年 7 月時点の病床機能報告においても急性期機能として報告済み。